

Rotary



宮崎南週報



感動と充実で豊かな夢と輝きを!

宮崎南ロータリークラブ
会長 日高 章智

第1821回例会

2015.2.23

会長／日高 章智 幹事／入佐 秀幸
副会長／川野 一義 会報／戸高 勝利
例会場／宮崎観光ホテル
ソング／それでこそロータリー 浦島太郎
ロータリーの目的／



宮崎RC
長友孝允様

会長挨拶

日高章智会長



本日2月23日は、国際ロータリー創立記念日で偶然我がクラブの例会と重なりました。1905年2月23日米国イリノイ州シカゴで青年弁護士ポールハリスが創始した日です。最初はクラブの会合が会員の事業所で輪番に開かれたのでロータリーという名称が採用されました。

当時の日本は日清日露の勝利で国民全体が浮かれ軍部の専制がだんだんと強まり中国との全面戦争に突入して、第二次世界大戦に続くきっかけとなりました。昭和20年までは日本は動乱の時代がつづきました。20年以後は敗戦後の平和憲法により、世界中で一番平和で希望のもてる国に生まれ変わりました。国を思い戦場で亡くなった数多くの戦争犠牲者の事を思うと痛恨の極みです。私共はこの事実を片時も忘れる事なく真心の行動で平和に挺身しなければならないと思います。

幹事報告

入佐秀幸幹事



・中国語翻訳ボランティア研修会の案内
が届いております。

出席委員会報告

分田正明委員長

●出席状況

本日状況	
会員数	(39) 40名
本日欠席者数	17名
本日出席者数	23名
出席率	58.97%

前々回状況	
会員数	40名
ホームクラブ出席者数	29名
メークアップ数	0名
修正出席者数	29名
修正出席率	72.50%

●前々回メークアップされた方／

ニコニコ BOX	0件	0円
	累計 211,000円	

募金箱	4,510円
	累計 127,831円

その他

宮崎中部分区ガバナー補佐

押川弘巳会員



宮崎南RCの皆様、本日は第2回目のガバナー補佐訪問に参りました。

本来ガバナー補佐訪問は任期中に1クラブ4回訪問せよ。との決まりなのですが私は3回の訪問と、会長幹事会を充実させたいと思っています。さて、次年度のガバナーエレクト野中玄雄氏がアナハイムの国際協議会に1月18日出立され帰宮されました。次年度R I会長K.R.“ラビ”ラビンドラン会長のR Iテーマは

「世界へのプレゼントになろう」

～Be a gift to the World～

という事でございます。種々の目標が提示されていますが、先ず、最優先されるのがR I重点項目

* ポリオ撲滅

* 会員増強

* 公共イメージアップと財団協力推進

となっています。皆様の御協力を宜しくお願いします。

本日の例会は一昨日がロータリー発足110年目に当たり、発足当初からすると巨大な組織となり、御目出度いことでございます。さて、当クラブ40周年事業が来月に迫っていますが、会員の皆様におかれましては、大変なご苦労だと思います、立派な式典となります様祈念いたします。クラブ運営に於かれましても、よく充実した運営内容で、田中ガバナーも感心されていらっしゃいました。これも日高会長の日頃の卓越した手腕のたまものだと感じています。今後もなお一層の充実した運営にご努力ください。有難うございました。最後にIMが来月14日に開催されますが、入佐幹事さんが孤軍奮闘されています。

御協力宜しくお願い致します。



ロータリー情報

社会奉仕(Community Service)

社会奉仕は、クラブの所在地域または行政区域内に住む人々の生活の質を高めるために、時には他（ロータリアクトクラブ、インタークトクラブ、ロータリー地域社会共同隊など）と協力しながら、会員が行うさまざまな取組から成るものである。

本日のプログラム

外部卓話

NPO法人アースウォーカーズ 小玉直也代表

「東日本大震災からもうすぐ4年

被災地の子供達の今」



※小玉さんの活躍をまとめた記事を
下記に掲載致します。ご参考ください。



未来の福島を支える力を育てたいー

宮崎から笑顔を発信！

NPO法人アースウォーカーズ代表 小玉直也さん

宮崎県で立ち上がったNPO法人アースウォーカーズのボランティア活動は、震災後、南三陸町を出発点として始まった。福島に入ったのは3ヶ月後の7月1日。医療支援ネットワークの事務局長たちと一緒に南相馬、浪江を観察して回った。津波の悲惨さは南三陸で十分思い知らされてきたが、加えて原発事故で人々が消えた町の異様な静けさに唖然となつた：と、当時を振り返る代表の小玉直也さん（42歳）。

それ以降、小玉さんは宮崎からのべ500人以上のボランティアを福島に送っている。瓦礫の撤去、仮説住宅での炊き出し、子どもへの支援など、小玉さん自身も寝食を忘れてそれに加わってきた。

●子どもたちの笑顔が見たいー 福島の子どもたち・宮崎に来んねキャンプ



最初は国境なき医師団に合流して南三陸町に入ったが、その後小玉さん自身がNPO法人を立ち上げ、宮崎県の大学生を中心としたティア活動に参加している。

2011年の東日本大震災では最初は国境なき医師団に合流して南三陸町に入ったが、その後小玉さん自身がNPO法人を立ち上げ、宮崎県の大学生を中心としたティア活動に乗り出した。

戻ってきた。

その様子はNHKテレビでも紹介され、地元のメディアも取り上げたことで、多くの宮崎県民の知るところとなり、ともすれば風化しつつある福島の情報に一石を投じる結果にもなった。

このキャンプには、総勢200人以上の人々が協力している。地元の学生スタッフは何度もミーティングを開いて準備をし、小玉さんも福島を訪れてスタッフと入念な打ち合わせをする。キャンプが終わればすぐ反省会を行い、次回の企画に入る。2015年2月には4回目の開催が決まっている。

その代表的な活動が、原発事故によつて外で思いつきり遊べなく

び、自分自身を成長させていく過程を大切にしたいという小玉さんの思いがある。

アースウォーカーズの活動の特徴は、多くの人を巻き込んで、それも大学生や若者を中心に活動を運営していることだ。若い人がボランティアや社会貢献活動に関わっていく中で、体験を通して学

小玉さんの本職はフリーカメラマン。ボランティアを本格的に関わるきっかけは、今から11年ほど前にイラクの首都バクダッドを訪れた時に出会った子どもたちだった。当時はイラク戦争の真っ只中、空爆で両親を失つた子どもたちは400万人以上といわれている中、孤児の悲惨さを目撃した。その後2005年にスマトラ沖地震支援、2007年の中越沖地震でも被災地を訪れるボランティア活動に参加している。

外遊びが出来ない福島の親子に、自然の中で思いっきり遊んで欲しいという思いでプログラムを組んだ。裸足で遊ぶ、落ち葉やどんぐり拾い、野菜の収穫体験、プロ野球選手との交流などを通してのびのびと遊ぶ子どもの姿に、お母さんたちの顔にも自然と笑顔が



なつた子どもたちへの「福島の子どもたち、宮崎に来んねキャンプ」だ。2012年2月の第1回を切りに、今年で3回目、延べ60名の未就学児とその保護者を7泊8日の保養キャンプに招いている。企画と寄付集めは小玉さん。宮崎の大学や福島大学のボランティアサークルに働きかけて運営の輪を広げ、宮崎の観光協会や地元の農家、民宿の人たちの協力をもらいながら実施してきた。

企画と寄付集めは小玉さん。宮崎の大学や福島大学のボランティアサークルに働きかけて運営の輪を広げ、宮崎の観光協会や地元の農家、民宿の人たちの協力をもらいながら実施している。企画と寄付集めは小玉さん。宮崎の大学や福島大学のボランティアサークルに働きかけて運営の輪を広げ、宮崎の観光協会や地元の農家、民宿の人たちの協力をもらいながら実施している。